

## 市指定文化財<史跡>

### うちこしじょうあと 打越城跡

指定日 昭和49年4月1日

所在地 菊池市七城町蘇崎 打越



打越城は菊池十八外城の一つで、菊池氏が西方の敵に備える<sup>ようしょう</sup>要衝の地であったと考えられる。この台地から北方、西方への眺望はすばらしかったであろうが、現在は竹林に覆われ見晴らしは全く良くない。

代々林原氏の居城で、林原与三隆益一族が防備にあたった。

西方面の備えに対しては、もう一つ城があったと考えられる。それは蘇崎新村地区の北側(打越城から南西へ1km弱)に、「城の本<sup>じょうのもと</sup>」という字地名が残る一帯である。また「城の本」の横には城、陣館などの名残である「土井の内」、それに連なって「<sup>よろいざこ</sup>鎧迫」と、この一帯には軍事に関する地名が多く残されているため、城があったと考えられるところである。

この城は、康暦元年(1379)、板井原の戦いのときに戦場となり、九州探題今川軍に落とされている。

菊池一族の滅亡(1520頃)後、この城の主になったのは怒留湯飛驒守であり、その末裔は今も打越集落に健在である。